

審査委員長講評

新学習指導要領の改訂に向けて作業が進んでいます。年明け2月14日には、小・中学校の学習指導要領改訂案が公表され、その総則では、学校と社会の連携・協働の実現を図る「社会に開かれた教育課程」を重視し、児童生徒が「何ができるようになるか」、そのために「何を学ぶか」「どのように学ぶか」を意識しながら、教育内容を編成するカリキュラム・マネジメントを実施するよう求めています。さらに、言語能力や情報活用能力、問題解決能力などの資質・能力を育成し、現代的な諸課題に対応できる力を身に付けることが強調されています。理科では、指導内容の充実とともに、科学的な思考力・判断力・表現力等の育成や科学を学ぶことの意義や有用性の実感及び科学への関心を高めることが求められています。

このようなことを踏まえると、理科においては、子どもたちが自ら問題を見だし、主体的に問題解決を図っていく力を育成していくこと、また、そうした活動の中で、思考力、判断力、表現力等を育てていくことや生活や科学を学ぶことに意義や社会との密接な関係性を児童生徒自らが実感できる取組が求められていると言えます。多くの学校では、長期の夏休みに自由研究が課題となっており、まさにこのような力を身に付けたり実感したりするには絶好の機会であると思います。

本年度も、千葉市総合展覧会科学部門が、市内各小中学校から約1,000点の科学論文や科学工夫作品が出品され、千葉市科学館（きぼーる）において9月16日～19日の4日間の会期で開催されました。児童生徒が自然や身近な生活の中に疑問や課題を見つけ、これまで学習による知識や経験を生かして、観察や実験を積み重ねてまとめ上げた科学論文と、日常生活の中からヒントを得た実用性のある作品や夢のある科学工夫作品が所狭しと並べられました。日程の後半は天候に恵まれませんでした。会場には連日多くの児童生徒、保護者の皆様や市民の皆様が訪れ作品を鑑賞していました。1階アトリウムでの児童生徒や主任会役員の解説は今年度も好評でした。また、中学校の工夫作品解説を映像で作成し、DVDとして視聴できるようにしたことも好評でした。

今年度の作品の傾向としては、継続研究が多く出品され、地道な努力を積み重ねた作品が目立ちました。また、各学校で取り組んでいる観察・実験やレポート作成、表現力の育成などに注力していることが、成果として表れた科学論文も多くみられました。各学校での日頃の理科指導に感謝いたします。さらに、理科自由研究相談会に相談に来た児童生徒や「未来の科学者育成プログラム」受講者の出品や入賞が増えていることも、本市科学教育の成果だと言えます。

代表作品が千葉県科学作品展に出展され、千葉県知事賞や千葉県教育長賞、千葉県総合教育センター所長賞を受賞するなど、多くの作品が大変優秀な成績を収めました。これは、千葉市の理科教育の水準の高さを示していると言っても過言ではありません。また、子どもたち自身の努力と、保護者の皆様や理科担当の先生方の協力や努力の成果でもあります。こうした成果を土台にして、ますます千葉市の理科教育が充実していくことを願っています。

結びに、御尽力いただいた理科主任会及び千葉市教育委員会指導課の皆様方に感謝を申し上げます。